**実務実習委員会　第２・３期　振り返り実務実習受け入れ施設振り返り・情報交換会**

開催日時：11月25日（水）18：30　～20：00

実務実習委員会で実習の振り返りは毎回行っていましたが、委員会で実習を受け入れている施設で情報交換を兼ねた振り返りをしたいとの意見があり、各病院にお声掛けしたところ多数参加していただくことができました。今回の振り返りで、情報の共有と課題を話し合うことができました。今後さらに実習がより良いものになるように実務実習委員会としてお手伝いできるように努めていきたいと思います。

参加施設　（50音順）

NHO沖縄病院、大浜第一病院、大浜第二病院、沖縄協同病院、沖縄第一病院、

県立こども病院・南部医療センター、赤十字病院、中頭病院、那覇市立病院

中部病院、中部徳洲会病院、北部地区医師会病院、友愛医療センター、琉大病院

議事録担当：琉大病院

【議題1】　新型コロナ感染症の影響

ＣＯＶＩＤ-19感染症の影響として、実習の時期が変更になった施設や、緊急事態宣言中、病院内での実習が行えなかった期間は、例年実習中に行っていた座学のスライドをリモート講義として行った施設や大学側から提供された遠隔実習用の教材を使用しての対応を行ったなど報告があった。

実習生受け入れの判断は病院によって異なっていたが、どの実習施設も新型コロナ感染症対策を十分行った上で緊張感の中、実習を行っていた。

【議題2】　実務実習合同発表会について

平成24年ごろから、初期は調剤薬局、病院間で行い、基本的には実習の統一化を図ることが目的として開催されている。懇親会を行って情報共有を行っていた時期もあった（飲食、経費がかかることもあるため、懇親会は無くなった）との報告があり合同発表会の趣旨や目的を共有することができた。

・発表会の目的・意図など学生指導の工夫

〇症例についての時間は短く。病院の印象や働いている薬剤師の印象をまとめるよう指導している。将来の薬剤師像をまとめられるように。症例は短くするように指導。中部徳州会は院内でも別で症例検討を行っている。症例検討を行うという意味での発表であれば、５分は短いと思われる。→実務実習委員会でも検討されていた内容、なるべく症例発表に偏らないように依頼している。

〇今回も症例検討ベースにした。臨床の場で学んでもらっているので、症例をつくる、まとめるというのを現場で学んでもらうのも良いことと思う。大学ではそういうこと学ぶのは難しいため。

〇学生主体でまとめてもらっている。最後に修正する程度で薬剤師はかかわっている。

〇以前勤務されていた大学病院での経験。いくつかテーマを挙げて、実臨床での検討が必要な事項を、一緒に検討していた。（言い方を変えると、臨床推論を薬学生にもさせていた）現在は、実臨床での臨場感を求められている場面を多く感じる。

〇何を発表したいか学生から聞いて、担当者が相談する。

〇実習は学んだことを臨床の現場に生かすか。薬剤師がどう生かしているか。チーム医療のなかで薬剤師がどう活躍しているのか。というのをテーマにしている。感じたことをまとめて伝えるのも薬剤師の仕事（集めた情報を患者、医療者に伝える）。院内で症例発表をしている。症例発表はとても重たくなるので発表の前に、事前に症例を職員にも知らせている。

【課題3】：実務実習についての課題

〇チーム医療をしっかり教育として行っていきたい。少なくとも１症例は学生に見学してもらい、他職種の業務を見学させている。入院してから退院するまで、または外来を受診してから帰るまでの一連の流れを学べる環境を作りたいと思っている。

【議題4】：九州山口機構に伝えたいこと。

担当は琉大病院　石井

《学生の自家用車の利用について》

〇以前、大学側から自家用車は使用しないように言われたためか、学生はほぼ全員親御さんの協力を得られて送り迎えしてもらっている。他の施設ではどうしているのか。

〇どのように病院にくるのか学生に聞いている。自家用車の場合は大学にも許可を得ているのか確認している。

〇実習生によっては自家用車を使わないよう言われていることがある。

〇自家用車使わないよう言われた学生が1時間かけて歩いてきていることがあった。

また、実習費について機構側に伝えて欲しいことなどの意見があった。

《その他》

発表会用のスライドを作成してもらっていたが、大学で症例報告の課題をもらっていた。

事前に病院は把握できていなかった。

大学によって提出型式が異なる。

個人情報などの取り扱いもあるので、学生に大学からの課題があるか事前に聞き対応する必要があると感じた。

今後も年に1回程度、実習受け入れ施設の情報交換会を持ち沖縄県の実習をよりよいものにするために協力していくことで意見が一致し会を終えた。